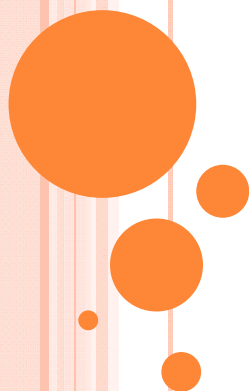


学生の自立力・コミュニケーション力を 育成するための理想のプログラム



C-1
チームGU8

目次

1. 現状と要因
2. 解決するための鍵
3. 解決策
 1. 理想のプログラムとは
 2. 育成プログラム(全体図)
 3. 1年次プログラム
 4. 2～3年次プログラム
 5. 4年次プログラム
 6. 分析、フィードバック、改善策

まとめ



1. 現状と要因

< 現状 >

- 積極性のない学生が多い
- 大学にある有益な情報が活かされていない
- 事務室離れ



< 要因 >

- コミュニケーション能力がない
- 大学にコミュニティーがない
- 教職員との距離がある
- 目的意識がない

2. 解決するための鍵

- コミュニケーション能力がない
⇒ 学生の自立力(コミュニケーション能力)を高め、
学生による情報発信を可能にする
- 目的意識がない
⇒ 4年間ですべきこと、卒業後のビジョンを発見する
- 大学にコミュニティーがない
⇒ 学生が積極的に大学を利用する環境づくり
- 教職員との距離がある
⇒ 学生と教職員の距離を縮める

3. 解決策

- ▶ 学生の自立力・コミュニケーション力を育成するための理想のプログラムをつくる

「理想のプログラム」とは？

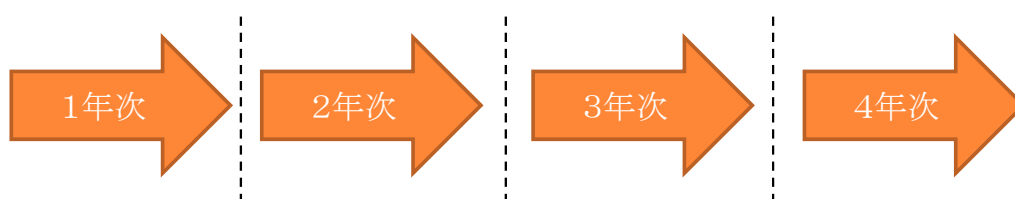


「学生が、教職員と連携して自発的に参画することで
つくりあげる自己形成プログラム」

プログラムイメージ

通常授業

教員 ⇒ 学生

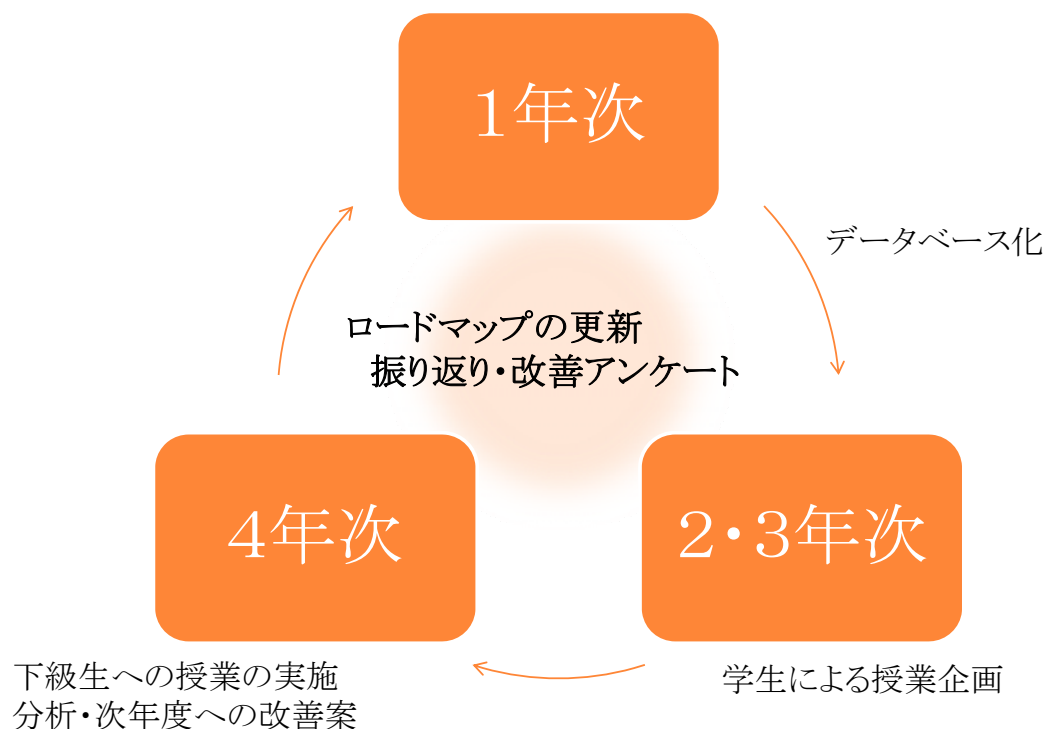


理想プログラム

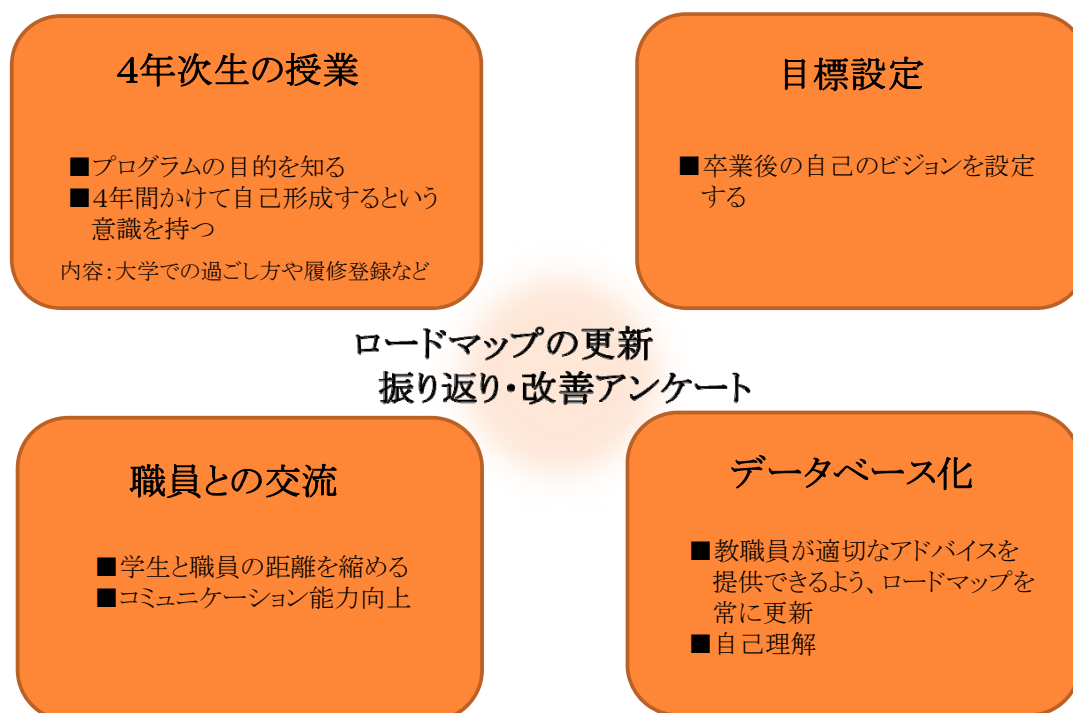
教職員 ⇔ 学生



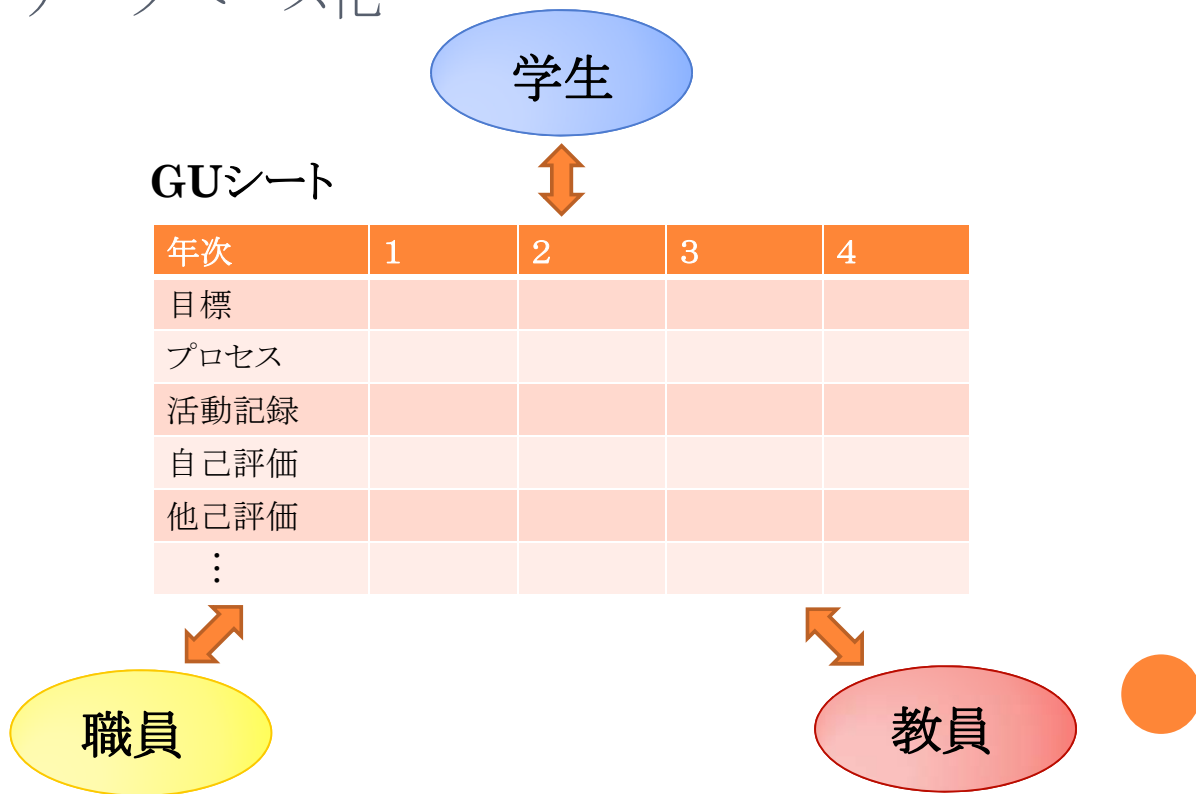
育成プログラム



1年次のプログラム



データベース化



2・3年次のプログラム

プロジェクト学習

■自分が身につけたい知識や能力開発のために自ら企画立案し、授業をコーディネートする

■振り返りを経て、一段階上の実行力を身につける

例えば、就職活動を視野に、OB・OGを講師に招く

ロードマップの更新
振り返り・改善アンケート

4年次のプログラム

下級生対象の授業実施

■4年間のプログラムの総括として1年次生へ授業を実施する。

内容:大学での過ごし方や履修登録など

ロードマップの更新 振り返り・改善アンケート

フィードバック・改善案

■よりよいプログラムを次世代に引き継ぐ

育成プログラム

1年次

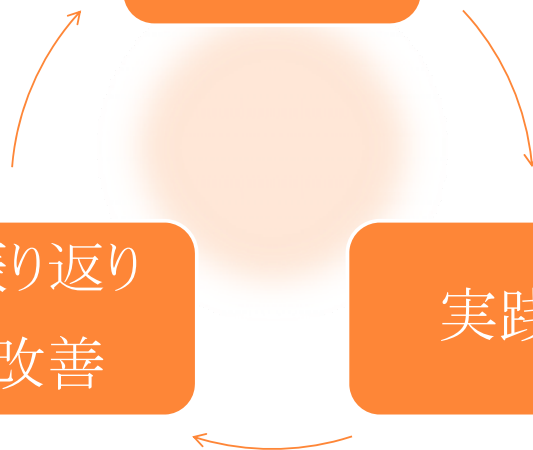
自己発見

振り返り
改善

4年次

実践

2・3年次



課題

- プログラムを実践するにあたり、マンパワー不足が懸念される。
- プログラムが4年間という長期のため、フィードバックのあり方を検討する必要がある。



まとめ

4年間のプログラムによって、
自立力・コミュニケーション力を
育成し、社会で生き抜く力を
身につけることができる。

